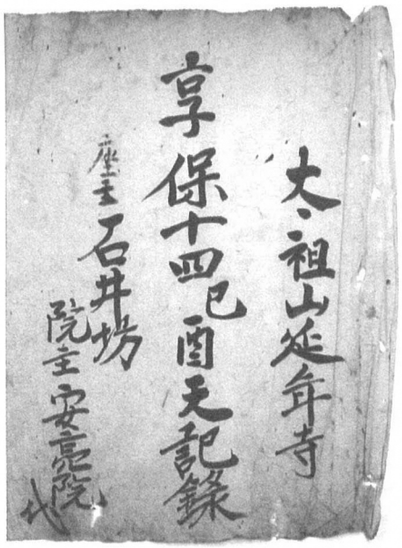
ささぐり紀行　その五十八

「石井坊文書」に見る「雨請」について

「石井坊文書」を見ていて、「雨請」の記述が多いことに気がつきました。そこで『太祖山延年寺、享保14年（1729）巳酉天記録、石井坊、院主安亮院代』に記された天候と「雨請」について述べることにします。

記録を順に見てみると、1月（陰暦）に雪と雨が2日降り、2月は雨がほんの少し降っただけで、3月と4月はそれほど大量でない雨が3日ずつあっただけでした。5月は7日に少し雨があっただけで、18日に梅雨に入りますが、依然として雨が降りません。

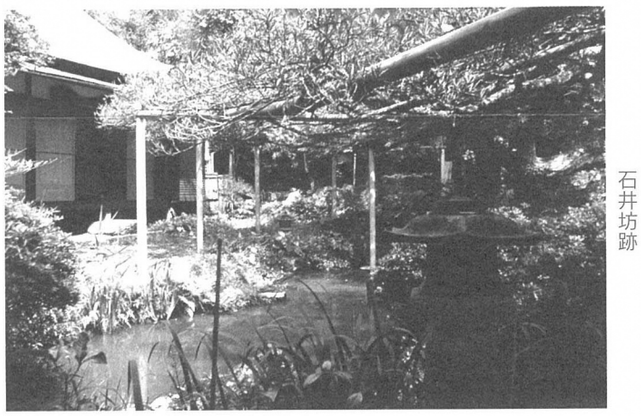
このままでは田植えができないので、5月19日に仲原村が最初に雨請を行っています。記録には「五月十九日中（仲）原村觸下村々雨請仕ル太祖山権現ニ勧浄（請）仕ル仲原村かよちや（う）ニ御初穂銀十二匁曇雨少々ふる」と書かれています。初穂銀とは雨請の祈祷料のことで、米に換算すれば一俵余くらいです。さらにこの雨請には、郡代（代役）とその下役の下郡（代役）も出席していました。すなわち雨請の主催者は仲原村でありますが、郡役所が後援者となっている事実がわかります。石井坊の役割は読経が中心になっています。その後の記録には「曇雨少シふる」と記されています。



続いて「同月（5月）廿日晩左谷村庄や伊助殿太祖山上宮ニ通夜　同村頭百姓中大夕立」、「同月廿一日上須恵村ヨリ雨請」、「同月廿四日左谷村雨請　夕方ヨリ雨大ふり」とあり、26日の所には「雨晩方（25日）ヨリ降出……右雨ニ而郡々村々少々水田罷成廿七日廿八日ニ之間始テ田植有之　尤　其前ニ田少つゝかゝりよく御座候処ハ壱人手前ニ田半壱反も間ニ植申者も有之」ともあり、雨が降ったことがわかります。しかし「同月廿九日施主戸原觸右衛門中　大庄屋戸原觸徳右衛門殿御出　太祖権現下宮ニ而雨請　両郡代御名代　御附衆弐人御出　御祈祷仕ル御初穂銀十二匁　踊之あり」と書かれ、さらに「右月雨聢とふり不申諸方に雨請御祈祷所々村々ニ有り」と5月を締めくくっています。

6月1日に左谷村が雨請を行い、仁王経や他の経をいくつかあげています。同月5日に雨が少々降ると記されていますが、同月7日には左谷村が雨請を行っています。さらに「同月八日此の日大豆蒔付村々も大豆まく当寺　十日前後ニ大豆蒔時分」とあり、続けて「上宮ニ通夜施主左谷村八郎兵衛殿外ニ壱人添人同日八日より十日まで二夜三日断食仕ル」とあり、庄屋ではない八郎兵衛が雨請の断食を行っており、左谷村の水不足の深刻さがうかがわれます。また「御祈祷ニ仁王妙典三部諸真言諸経読誦仕ル施主宮司石井坊現住安亮院賢義　敬之　心指ニ仕ル　大日照ゆへ雨請御祈祷奉執行」と記されており、石井坊の安亮院賢義が太祖宮の宮司もしており、日照りが続くために御祈祷を行ったことが述べられています。その後、11日に大夕立が降り、13日に仲原村河内に雨が降っていますが、18日に江辻村が太祖山上宮で雨請を行っています。

さらに「此時分御公儀様ヨリ筥崎八幡宮ニ而雨請御祈祷一七日　其上ニ而つくえ嶋箱崎社僧衆雨請成就ニ御渡リ」とあり、使用された船は殿様からくだされたものと書かれています。この御公儀（藩）による雨請は計3度で、さらに「表粕屋郡中ヨリモ箱崎ニ而雨請両度有之　猪野太祖宮ニモ当郡中ヨリ雨乞壱度有之　此時分宝満山さいふ池さらへ有之　雨乞有之」とあり、表粕屋郡全体の水不足と雨請の様子が浮かびあがってきます。


石井坊跡

6月23日から26日までは雨が降ったものの、「同廿七日まで雨ふりかミなり此雨ニ而少々水有　若杉村丈吉殿　其外百姓衆中少々田植申候　当郡も水少々有ハ此日まで植申候五月廿日時分ヨリ田植始テ六月廿六七日まで田植申候……日ル（昼）夜ルニかけ稲三把五把ほど有之分人々植申候へ（え）共田早々水なし二成汲水も無御座候」とあって、少々雨が降っても焼け石に水という状態だったと想像されます。なお次の記述は、注目すべき内容を含んでいます。「御公儀様ヨリ御役人被遣さゝくり村水はずし尾仲村乙犬村之田ニ水入レ少々植候へ（え）共水つゞき無之候右月諸方川水ハ少シも志免りけ（湿り気）も無之　さゝくり川も流水無之候諸方共ニ呑水無御座候而難儀ニ（に）及申候」とあり、篠栗川の水を尾仲村、乙犬村に流したことを明らかにしています。田に入れる水がないために「右日照ゆへ田ニ大豆ま起（蒔き）申候　并小豆蒔」と田植えを諦めたようです。

7月4日から9日にかけては、若杉山をのぞく周辺の村々に夕立、雷が連日続いていましたが、「十日ニ若杉村ハ門水流申ほどふる　十二日ニ門水流申ほど若杉村山ニかけふる　夕立」と書かれています。さらに16日から19日にも雨が降り、「廿日ニ大ふり仕る　石井坊井ニ水」とあることから、石井坊の井戸に水が溜まったようです。そして同じ20日の項に「御国中とも二田ニ粟蕎麦ま起（蒔き）申候」と、百姓が田植えをしていない田にアワ、ソバをまいたと述べています。この後、7月下旬、8月、9月と雨の日が多く、大水による水害が出ており、雨請の記述は見られません。

最後に雨請についてまとめておくことにします。記録によりますと、雨請を行ったのは仲原村・戸原村・江辻村（現粕屋町）、佐谷（左谷）村・上須恵村（現須恵町）であり、とくに佐谷（左谷）村は何度もしています。雨請は太祖宮上宮において夜通し行われ、庄屋、頭百姓が代表として施主を務め、石井坊の院主が仁王経ほかの経を読誦し、祈祷しています。踊りが舞われることもあり、郡代役所の役人が出席することもあります。日照りが長引き深刻なときは、御公儀（藩）が音頭を取り、表粕屋郡の各村の大庄屋、庄屋を筥崎八幡宮に集めて雨請を行っています。日照りで田植えもできないようなときは、御公儀も打つ手がなく、雨請をほぼ正式の行事として認め、自らその先頭に立ったものと考えられます。

（町文化財専門委員　武藤軍一郎）